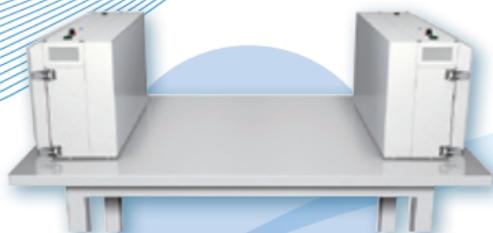


第51期 事業報告書

平成25年1月1日～平成25年12月31日



CONTENTS

株主の皆様へ	— 1
営業の概況	— 2
研究開発	— 3
会社に対処すべき課題	— 4
トピックス	— 6
業績の推移	— 8
貸借対照表の要旨	—10
損益計算書の要旨	—11
キャッシュ・フロー計算書の要旨	—11
株主資本等変動計算書の要旨	—12
剰余金の処分	—12
株式の状況	—13
会社の概況	—14
役員	—16
財務情報へのアクセス	—16

■表紙写真

KOKEN は、「クリーン、ヘルス、セーフティ」で、社会に貢献します。

上段：プレスリンクプロワーマスク「サカキ式BL-711H」

中段：テーブルコーチ「KOACH T 500-F」

下段：子ども用マスク「ハイラックKIDS」シリーズ

株主の皆様へ

当社の研究所やテクノヤードそしてテクニカルセンターにお越しになられた方々からは「興研はすごい技術をお持ちですね」と必ずお褒めの言葉をいただきます。手前味噌になりますが、実際私達経営陣から見ても本当にそうだと思います。それは長年に亘って技術者を育てるシステムを作り、その運営に心血を注いできた賜と思っています。技術者だけではなく、営業マンも5年程前からより高度に育つ人事制度を取り入れ、急成長している最中です。

そればかりではなく私達は次期経営者の育成にも力を入れてきました。そして若い経営陣が生まれ、もはや会社をしっかりと担っていける力をつけたと思われまます。

そこでこの度思い切って彼等に経営を任せていくことにしました。新社長の村川勉は頭脳明晰で沈着冷静、判断を間違えることのほとんどない人で、副社長の堀口展也も頭脳明晰で行動力抜群です。サポートする村松光二、田中文和両専務も極めて優秀な人材であり、総合力においてかつてない力を発揮できると思います。

オープンクリーンシステム「KOACH」は世界にない新技術であったために大いに驚かれ、事業の立上げに大変時間が掛かってしまい平成25年12月期の業績への反映には至りませんでした。今、日本における世界的研究機関への納入が加速しており、ようやく企業からの引合いも急増していることから、次期以降の立ち上がりは間違いのないところと思っております。

さらに次の事業用の研究開発も増々進んでおり、これ等を「KOACH」と同じように力強く推進していくためにも若い力が不可欠と判断した訳であります。

興研株式会社は、「人を育てる」、「技術を育てる」、「クリーン、ヘルス、セーフティで新しい市場を育てる」企業として成長し、2～3年後には一皮も二皮も剥けた新しい姿をお見せすることができると思います。

酒井宏之、山里洋介は、代表取締役を辞し致しますが、取締役相談役及び顧問として、新経営陣の補佐を続けて参ります。

私達、村川勉、堀口展也は、新たに代表取締役に就任することになりました。

当社は創業以来、産業用マスクを中心としたセーフティ事業で成長して参りましたが、近年「KOACH」を中心としたクリーン事業を立上げ、今まさに新たなステージへ登ろうとしているところです。次世代ではヘルス事業を第三の柱に育て、かねてより標榜してきました「クリーン、ヘルス、セーフティ」それぞれの事業を一本立ちさせることにより、安定感があり、力強く成長して行く企業に育てて参りたく、新経営陣一丸となり取組んで参ります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



山里洋介 酒井宏之 酒井眞一郎 村川勉 堀口展也
(登記名 眞一)

営業の概況

営業の経過及び成果

当事業年度（平成25年1月～12月）におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀による金融政策への期待感から円安・株高が進行し、海外における一部の不確定要因による下振れリスクはあるものの、輸出産業を中心とした企業収益の改善や個人消費の持ち直しの兆しが見られるなど、回復基調で推移しました。

しかしながら、安全用品事業の回復は6ヶ月以上遅れるのが経験則であり、またコストを優先する大企業も依然として多く、当事業年度において景気回復の恩恵に浴することはできませんでした。

引合いの急増を見て期待したオープンクリーンシステム「KOACH」については、事業の性格として受注に至るまでに相当の時間を要することが明らかとなり、引合い検討中の件数のみが膨れ上がる結果となりました。そうした状況から、売上高は74億76百万円（前事業年度比10.2%減）に留まりました。

利益につきましては、震災特需の反動減を予想し、全社的な経費圧縮に努めましたが、減収及び円安による原材料価格の高まりや新製品開発費用の増加等にもなう売上原価率の上昇により、営業利益4億66百万円（同37.3%減）、經常利益4億9百万円（同38.1%減）、当期純利益2億29百万円（同40.4%減）となりました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

（マスク関連事業）

医療用マスクの販売では、使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズの高フィット性能が評価され、全国の6割を超える保健所で採用が進みました。加えて、感染症指定医療機関、大学医学部、総合病院でも、着実にシェアが拡大してきています。

その一方で、期中の産業用マスクの需要は、回復という段階までには至っておらず、また原子力施設市場に投入した電動ファン付き呼吸用保護具「BL-711H」と全面形防じん・防毒マスク「1521」シリーズは、安全性のさらなる向上、コスト低減、装着者の不満解決といった製品コンセプトを高く評価され、全国の原子力施設での採用が相次いだものの、事故処理が続く東京電力福島第一原子力発電所様での当事業年度内での新たな受注には至らず、小幅の売上増に留まりました。

その結果、マスク関連事業の売上高は、68億36百万円（同7.5%減）となりました。

なお、本年5月に市場参入を表明した一般消費者用のマスクについては、子ども用マスク「ハイラックKIDS」シリーズ3品種を10月より発売いたしました。同シリーズは、インフルエンザ等の健康被害を受けやすいとされる子どもたちに、大人用と同じ高性能、高フィットのマスクを提供することを目的に開発したマスクで、当面月産50万枚の体制を整え、今後、高性能を希望する母親をターゲットとして、一般消費者向けに徐々に浸透させることを目指します。

（その他事業／環境関連事業等を含む）

オープンクリーンシステム「KOACH」については、引合いから受注までに時間を要することが期中に判明したため、活動目標を継続物件情報数の増大とする営業転換を行うとともに、まずは大学や研究機関に強力な販売チャネルを持つ理化学機器代理店網の整備に努めて参りました。その結果、物件数は当事業年度末で650件を超え、期待通りの蓄積が進んでおります。なお、京都大学iPS細胞研究所様や宇宙航空研究開発機構JAXA様など、国内の最先端技術の研究機関において、「KOACH」はそのクリーン化技術が高く評価され、近々には採用される見通しであります。

全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」については、採用ユーザー様からの追加発注に加え、ユーザー様の「鏡内侍」に対するコメントを記載した消化管の医療専門誌の広告展開も寄与し、着実な実績を上げている一方で、官公庁向けの空気浄化装置の受注は、震災特需の反動により対前事業年度比大幅減となりました。

その結果、その他事業の売上高は、6億40百万円（同32.0%減）となりました。

設備投資及び資金調達状況

当事業年度の設備投資は、総額4億51百万円で、その主たるものは、中井テクノヤード製造設備2億34百万円、労働安全衛生保護具等金型1億34百万円等であります。

当社は、運転資金の効率的調達を行うため、取引銀行5行と限度額32億円の当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しております。

研究開発

当社の研究開発は、当社の事業領域である「クリーン、ヘルス、セーフティ」に対し、自由で独創的な技術開発とその多面的応用を目指して活動しております。そして未来技術の基礎開発・応用開発にプロジェクトチームを含めマトリックス型の研究体制を敷いております。なお、研究開発担当人員は71名、当事業年度の研究開発費は、総額4億78百万円であります。

当事業年度中の主な開発製品は以下の通りです。

【マスク関連事業】

◇「ハイラックKIDS」シリーズ

3品種の子ども用マスクの製品化を行いました。

・「ハイラックKIDS」

健康な子どものインフルエンザウイルスやPM2.5などの吸入による健康被害のリスクを減らすために使用するマスクです。

・「ハイラックKIDSかからんぞ」

ハイラックKIDSに、排気弁を付けました。弁から息を吐くためマスク内が蒸れにくく、長時間の着用に適しています。

・「ハイラックKIDSうつさんぞ」

インフルエンザなどにかかってしまった子どもが、咳やくしゃみを通じて、家族や友人などにうつさないようにするために使用するマスクです。弁から息を吸う構造が、感染した子どもの呼吸負担を和らげます。



◇その他製品

・直結式小型防毒マスク「サカキ式R-5-08型」

密着性の高い面体構造と豊富な吸気口のバリエーションで、広く使用されている防毒マスクR-5型に陰圧法による密着性、気密性の確認が必要な時にいつでもチェックできるフィットチェッカーを内蔵させました。

・全面形直結式小型防毒マスク「サカキ式1621G型」

吹き付け塗装の際、塗料が付着しても簡単に拭き取って視界が保てるように、スーパーペイントバリアコート加工を施したガラス製のアイピースを採用しています。

・クールブローウエア「CB-1」

当社、デュボン(株)、アゼアス(株)のプロテックアライアンスの初の製品で、首元から送風することで、防護服全体に空気を送り込み、汗が蒸発する際の気化熱を利用して冷却効果を高めるように設計されています。

【その他事業／環境関連事業等を含む】

◇テーブルラミコーチ「LAMIKOACH J 500-F」

一般にクリーンルーム内で発生した粉じん等はクリーンルーム内に拡散した後、フィルタを何度も通過して徐々に捕集されるため、一旦汚染されてしまったクリーンルームが元の清浄度に戻るまでには相当な時間を要します。そこで当社は、発生した粉じん等のコンタミナントを拡散する前にラミネー流で捕捉してフィルタで捕集し、清浄化された空気を再びクリーンルーム内に戻すという室内循環式の換気装置「ラミコーチ」を販売しています。



そしてこの度、ナノファイバーフィルタ「FERENA」を搭載することで、より高い清浄度を達成し、かつテーブル等に置いて設置するだけで使用できる卓上タイプの「テーブルラミコーチ」を開発し、発売いたしました。

会社が対処すべき課題

当社が今後も成長を続けていくためには、以下の事項を会社の対処すべき課題と捉え、その解決のために全社を挙げた取組みを行って参ります。

- ・企業DNAの継承
- ・クリーン事業の確立 ～KOACHテイクオフを実現～
- ・マスク関連事業の医療・一般消費者市場への取組み強化

【企業DNAの継承】

当社は、会社設立以来、創業家の酒井家を中心として発展を続け、産業用マスクの国内トップメーカーという確固たる地位を築きました。当社は、そうした現状に甘んじることなく、「クリーン、ヘルス、セーフティ」を追求し、業容の拡大とさらなる発展を目指しておりますが、それを実現するために、これまでの酒井家に依存しない人材の開発に努めるとともに、次期経営者の育成にも力を入れ、この度経営陣の大幅な若返りを図ることといたしております。

新しい経営陣は、これまで進めてきた興研のDNAを明確にし、「①人を育てる、②技術を育てる、③クリーン、ヘルス、セーフティの分野で新市場を育てる（クリーン、ヘルス、セーフティで社会に貢献する）」という3つの経営理念を新たに掲げ、そのDNAを継承して参ります。

また、当社最大の強みである技術開発力を収益に結び付けるため「マーケティング本部」を新設し、当本部が中心となって、新しい市場を開拓できる企画力を研ぎ、高い技術開発力と卓越した営業力を両輪に据えた会社経営を進めて参ります。

【クリーン事業の確立 ～KOACHテイクオフを実現～】

オープンクリーンシステム「KOACH」は、国内最先端の研究機関でも、その独自のクリーン化技術が評価され、採用が相次ぐなど、今後クリーンビジネスの世界で革命を起こすと確信する重要かつ将来を期待する製品です。当社は、この「KOACH」を本格的にテイクオフさせて成長軌道に乗せ、クリーン事業の確立に努めて参ります。

また「KOACH」は、日本の産業再生の鍵（高度化、精密化）となるスーパークリーンの実現や国際競争力を高めるコストダウンを可能とするシステムとして国内に浸透させることが、「事業で社会に貢献する」という当社の経営理念を果たすことになる点においても重要な製品と位置



フロアーコーチEz
(ルーム型)



テーブルコーチ
(フルオープン型)

付けています。

平成25年12月末で650件を超えた「KOACH」の引合い物件情報数ですが、今後2,000件を常時確保することを目標とし、さらなる積み増しと確実に成約に結び付けるための営業活動を行い、本事業をマスク関連事業に並ぶ大きな柱に育てて参ります。

【マスク関連事業の医療・一般消費者市場への取組み強化】

国内製造業の就業者数の減少により、産業用マスクの需要拡大が期待できない中で、今後もマスク関連事業を成長させていくためには、医療及び一般消費者市場への取組みの強化が課題であります。

当社は、医療市場において、マスクのフィットの重要性の啓発活動を続けており、既に医療関係者だけでも8万人を超える漏れ率測定サービスを実施し、高性能・高フィットの感染症対策用マスク「ハイラック」シリーズへのご用命をいただけるようになってきております。その結果、当事業年度末では、全国の保健所の6割で「ハイラック」製品が採用され、また感染症指定医療機関、大学医学部、総合病院でも着実にシェアが拡大してきております。今後医療市場においてもトップシェアを目指し、本活動を継続して参ります。

一般消費者市場への参入の第1弾として、子ども用マスク「ハイラックKIDS」シリーズ3品種を10月に発売いたしました。今後、高性能を希望する母親をターゲットとして、徐々に浸透させる所存です。また、高性能な大人用マスクの市場投入も行い、一般消費者市場においても、確固たる地位の構築を目指します。

なお、新型インフルエンザ等のパンデミック時においても、マスクメーカーとしての供給責任の一翼を担うため、タイに生産子会社を設立しておりますが、平成26年度中には工場も完成してマスク製造を開始する予定で、その生産体制の確立にも努めて参ります。



漏れ率測定サービス



感染症対策用マスク
「ハイラック」シリーズ



子ども用マスク
「ハイラックKIDS」シリーズ

トピックス

最先端の研究機関を中心に採用が進む「KOACH」

オープンクリーンシステム「KOACH」は、ISOクラス1という高い清浄度と超低消費電力という世界に類を見ないクリーン化技術の特長から、精密機器分野はもとより、最先端の研究機関や医学・バイオ分野での導入が進み、政府が推進する国土強靱化という観点からも注目を集めています。

◇研究機関での採用が進み出しています

「KOACH」は、以下のような国内最先端の研究機関で採用されています。

- ・産業技術総合研究所 様
 - ・東京大学宇宙線研究所 様
 - ・東京大学院工学系研究科附属光子科学研究センター 様
 - ・自然科学研究機構国立天文台 様
 - ・海洋研究開発機構 様
- ほか



国立天文台内に設置された
フロアーコーチEz

そして近々には、宇宙航空研究開発機構 JAXA様、京都大学iPS細胞研究所様でも採用される見通しです。

◇実験・解析作業に欠かせない装置であることが実証されつつあります

「KOACH」は、極めて高い清浄度の空間を形成し、人の介入によって一旦汚染されても速やかに元の清浄度に回復するという特長から、京都大学iPS細胞研究所様をはじめとする医学・バイオ分野の研究施設での実験・解析作業に欠かせない装置との高い評価をいただき、同分野での導入が加速しつつあります。



京都大学iPS細胞研究所での
テーブルコーチを用いた実験

◇国のレジリエンス計画に貢献する技術であると紹介されました

政府が取り組む国土強靱化（ナショナル・レジリエンス）計画の議論の場として、平成25年9月、「強靱なコミュニティ（まちづくり・企業づくり・人づくり）はどのように実現すべきか？」と題したシンポジウムが開催されました。



国土強靱化シンポジウム

古屋国土強靱化担当大臣の基調講演に続く企業講演の中で、当社代表取締役会長酒井眞一郎が「レジリエンス時代のクリーンルームと企業のBCP対策」と題した講演を行い、「KOACH」の性能、管理、電気代、施工期間、耐震性等の優位性を示しながら、「KOACH」の普及こそが日本の科学技術と産業の高度化に寄与し、それが国の提唱する「攻めのレジリエンス」につながることを訴え、好評を博しました。

子ども用マスク「ハイラックKIDS」シリーズを発売

インフルエンザやPM2.5対策としてマスクに注目が集まっている中、当社は特に健康被害を受けやすい子どもへの対策が急務であると考え、子ども用マスク「ハイラックKIDS」シリーズを製品化し、「ハイラックKIDS」、「ハイラックKIDSかからんぞ」、「ハイラックKIDSうつさんぞ」の3品種を発売しました。

◇フィットの重要性が徐々に浸透

当社は、マスクにおけるフィットの重要性を啓発するため、マスクの「漏れ率測定サービス※」を行っておりますが、最近では当社以外にも国民生活センターがマスクの漏れに関する発表を行ったり、NHK「ためしてガッテン」で漏れ率測定の実験の様子が放映されるなど、フィットの重要性を伝えようとする動きが出てきました。また、一般消費者向けのマスクにおいても、フィルター性能だけでなく、高フィットを謳うマスクが出回るようになり始め、当社が長年訴えてきた“フィットの重要性”が世の中に浸透しつつあります。

※漏れ率測定サービス

平成25年12月末現在の体験者数 26万人
(一般事業所：18万人+医療機関：8万人)



ハイラックKIDS

◇「ハイラックKIDS」シリーズのフィット性能の高さの秘密

①従来の「ハイラック」シリーズで培ったフィット技術を継承

- ・FF (フリーフィット) リップ：マスク内側のリップ (折り返し部) が、顔の動きに追従してスキマ・ズレの発生を抑える
- ・耳かけ紐：フィットに最適な長さに調節が可能



高フィット性能を生み出すFFリップと耳かけ紐

②子どもを科学したデータに基づく設計

高フィット性マスクの「ハイラック」シリーズをベースとした上で、子どもの顔の計測や呼吸パターンの解析、漏れ率の測定などから得られたデータを基に、子どもの顔・呼吸に最適となるマスク設計を行っています。

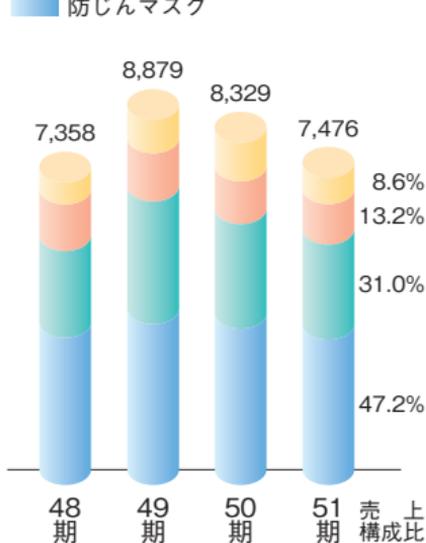


3Dスキャナを用いた測定

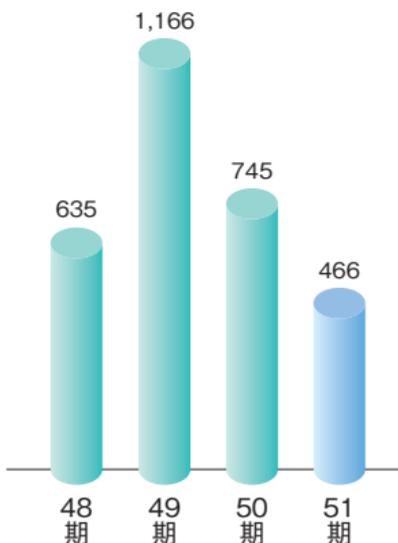
業績の推移

■売上高（百万円）

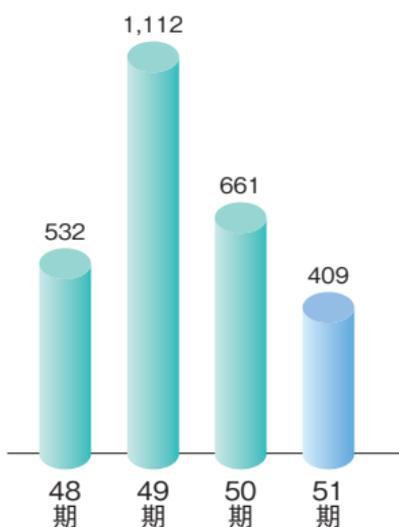
- 環境改善工事及び機器
- 防じんマスク・防毒マスク関連その他製品
- 防毒マスク
- 防じんマスク



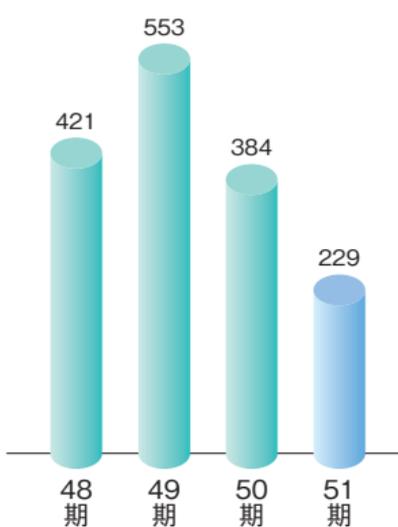
■営業利益（百万円）



■経常利益（百万円）

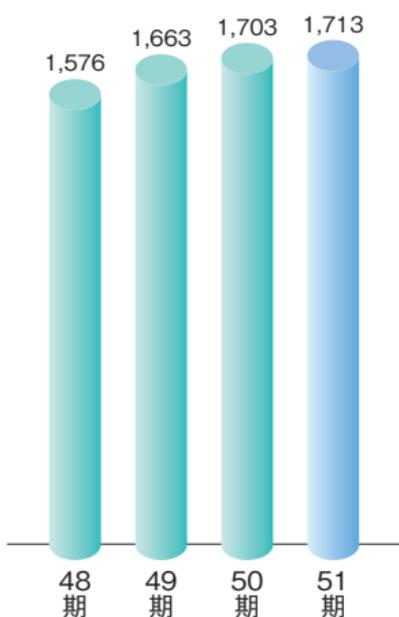


■当期純利益（百万円）

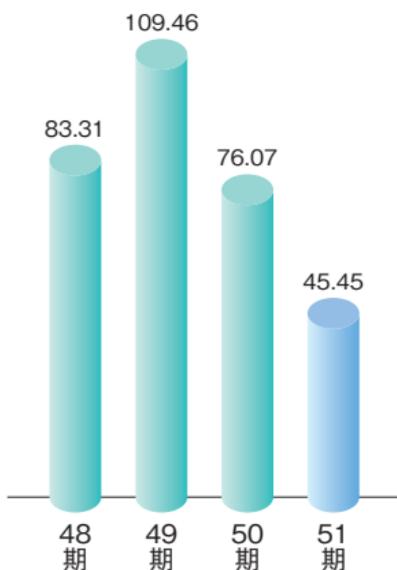


(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

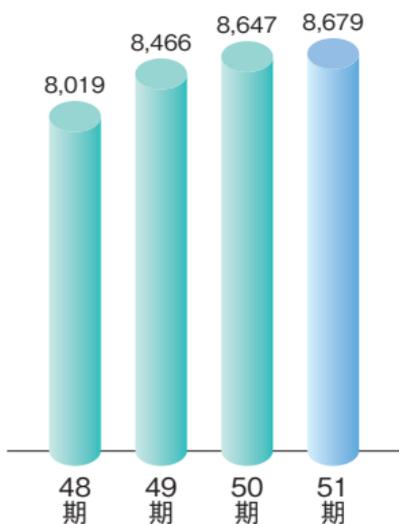
■ 1株当たり純資産額 (円)



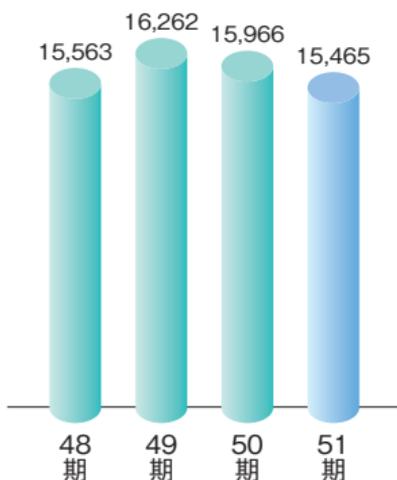
■ 1株当たり当期純利益 (円)



■ 純資産 (百万円)



■ 総資産 (百万円)



(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科 目	当事業年度 (平成25年12月31日現在)	前事業年度 (平成24年12月31日現在)	増減
●資産の部			
流動資産	6,451	7,180	△729
現金及び預金	1,652	2,320	△668
受取手形	1,154	1,111	42
売掛金	2,224	2,151	72
たな卸資産	1,139	1,160	△21
その他の流動資産	285	440	△155
貸倒引当金	△4	△4	-
固定資産	9,014	8,785	228
有形固定資産	7,261	7,467	△205
無形固定資産	79	40	38
投資その他の資産	1,673	1,277	395
資産合計	15,465	15,966	△500
●負債の部			
流動負債	4,032	4,496	△464
買掛金	144	177	△32
短期借入金	2,000	2,300	△300
1年内返済予定の長期借入金	1,124	1,235	△111
未払金	151	167	△16
未払費用	149	157	△7
その他の流動負債	462	459	3
固定負債	2,753	2,821	△68
長期借入金	2,168	2,212	△44
その他の固定負債	585	609	△24
負債合計	6,785	7,318	△532
●純資産の部			
株主資本	8,639	8,634	5
資本金	674	674	-
資本剰余金	527	528	-
利益剰余金	7,531	7,462	68
自己株式	△93	△31	△62
評価・換算差額等	10	△0	10
株式等評価差額金	10	△0	10
新株予約権	29	13	16
純資産合計	8,679	8,647	31
負債・純資産合計	15,465	15,966	△500

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	当事業年度 (平成25年1月1日から 平成25年12月31日まで)	前事業年度 (平成24年1月1日から 平成24年12月31日まで)	増減
売 上 高	7,476	8,329	△853
売 上 原 価	4,183	4,585	△401
売 上 総 利 益	3,292	3,744	△451
販売費及び一般管理費	2,825	2,999	△173
営 業 利 益	466	745	△278
営 業 外 収 益	25	36	△11
受 取 利 息	0	0	0
その他の営業外収益	24	36	△11
営 業 外 費 用	82	120	△37
支 払 利 息	62	64	△2
その他の営業外費用	20	55	△35
経 常 利 益	409	661	△252
特 別 利 益	-	42	△42
特 別 損 失	1	21	△20
税引前当期純利益	408	682	△274
法人税、住民税及び事業税	160	143	17
法人税等調整額	19	154	△135
当 期 純 利 益	229	384	△155

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

科 目	当事業年度 (平成25年1月1日から 平成25年12月31日まで)	前事業年度 (平成24年1月1日から 平成24年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	806	1,205
投資活動によるキャッシュ・フロー	△708	△46
財務活動によるキャッシュ・フロー	△766	109
現金及び現金同等物の期末残高	1,652	2,320

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書の要旨

(平成25年1月1日から平成25年12月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金		別途積立金	その他利益剰余金 圧縮記帳 積立金	繰越利益 剰余金
当 期 首 残 高	674	527	0	168	6,386	26	881
事業年度中の変動額							
別途積立金の積立					300		△300
圧縮記帳積立金の取崩(注)						△1	1
剰余金の配当							△126
当期純利益							229
ストックオプションの行使			△0				△34
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)							
事業年度中の変動額合計	-	-	△0	-	300	△1	△230
当 期 末 残 高	674	527	-	168	6,686	25	650

	株主資本		評価・換算差額等	新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金		
当 期 首 残 高	△31	8,634	△0	13	8,647
事業年度中の変動額					
別途積立金の積立		-			-
圧縮記帳積立金の取崩(注)		-			-
剰余金の配当		△126			△126
当期純利益		229			229
ストックオプションの行使	74	40		△6	33
自己株式の取得	△137	△137			△137
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)			10	22	33
事業年度中の変動額合計	△62	5	10	16	31
当 期 末 残 高	△93	8,639	10	29	8,679

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

剰余金の処分

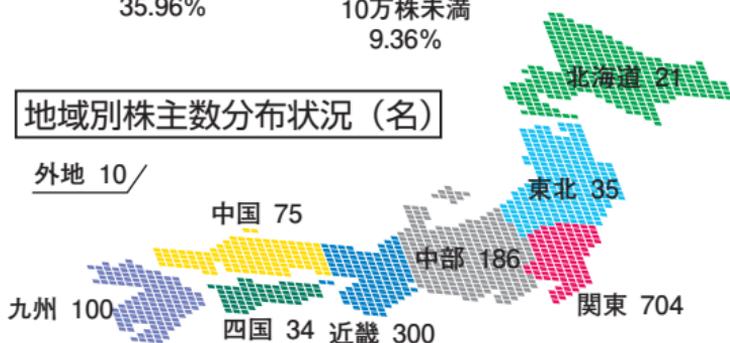
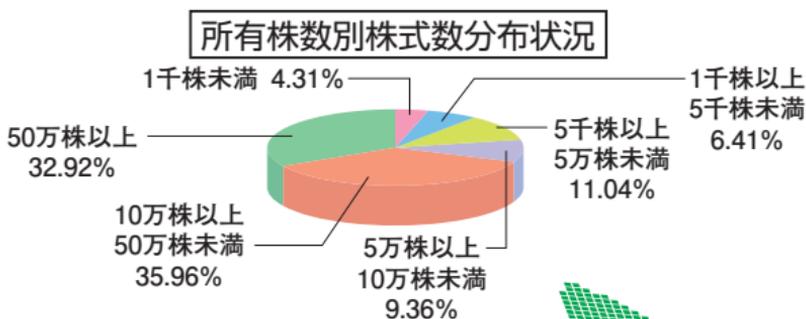
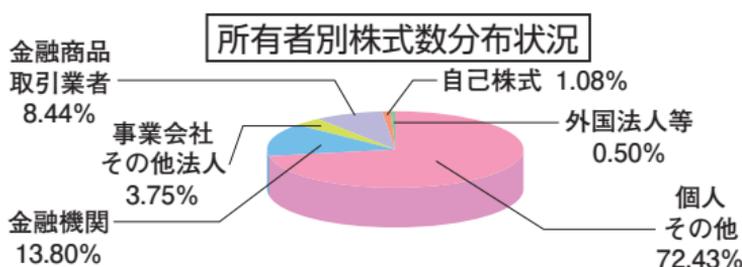
1. 期末配当に関する事項
 - ①配当財産の種類
金銭
 - ②配当財産の割当に関する事項及びその総額
配当総額 126,218,900円 (1株につき25円)
 - ③剰余金の配当が効力を生じる日
平成26年3月28日
2. 剰余金の処分に関する事項
 - ①増加する剰余金の項目とその額
別途積立金 1億円
 - ②減少する剰余金の項目とその額
繰越利益剰余金 1億円

株式の状況 (平成25年12月31日現在)

- ◆発行可能株式総数 20,000,000株
- ◆発行済株式の総数 5,104,003株
- ◆株主数 1,465名
- ◆資本金 674,265,291円
- ◆単元株式数 100株
- ◆大株主（上位5名）

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
酒井真一	856,000	16.95
酒井宏之	824,400	16.33
(株)りそな銀行	244,300	4.84
酒井香織	229,600	4.55
酒井理絵	229,600	4.55

(注) 持株比率は自己株式(55,247株)を控除して計算しております。



会社の概況 (平成25年12月31日現在)

◆主な事業内容

当社は、防じんマスク、防毒マスクなどの労働安全衛生保護具及び環境関連機器・設備の製造、販売を行っています。

◆従業員数

218名

◆主な事業所及び工場

本社	東京都千代田区四番町7番地
狭山テクノヤード	埼玉県狭山市広瀬台2-15-33
群馬テクノヤード	群馬県みどり市笠懸町久宮381-1
所沢テクノヤード	埼玉県所沢市城858-1
中井テクノヤード	神奈川県足柄上郡中井町井ノ口2442-12
嵐山テクノヤード	埼玉県比企郡嵐山町花見台3-3
飯能研究所	埼玉県飯能市川寺568
埼玉配送センター	埼玉県比企郡嵐山町花見台3-3

本社



狭山テクノヤード



群馬テクノヤード



ISO 14001環境マネジメントシステム審査登録

所沢テクノヤード



ISO 14001環境マネジメントシステム審査登録

中井テクノヤード



ISO 14001環境マネジメントシステム審査登録

飯能研究所



嵐山テクノヤード



◆営業拠点



◆品質保証体制

ISO 9001品質マネジメントシステム全事業所一斉審査登録

登録番号：JSAQ 405

適用規格：JIS Q 9001:2008, ISO 9001:2008

登録日：1999年1月4日

役員 (平成26年 3月27日現在)

代表取締役会長	酒井 眞一
代表取締役社長	村川 勉
代表取締役副社長	堀口 展也
専務取締役	村松 光二
専務取締役	田中 文和
常務取締役	秋山 俊雄
取締役	長坂 利明
取締役相談役	酒井 宏之
常勤監査役	小山 悦男
常勤監査役	下坂 正準
監査役	江見 準之
監査役	河合 弘之
執行役員	伊藤 善博
執行役員	齊藤 雄司
執行役員	木村 一志

財務情報へのアクセス

ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp/>

- ①アドレスを入力してください。
- ②財務情報をクリックしてください。
- ③スクロールしながら、各情報をご確認ください。

The image shows a two-step process for accessing financial information on the Koken Ltd. website. In the first step, the user is on the homepage, and an arrow points to the '財務情報' (Financial Information) link in the top navigation menu. In the second step, the user is on the financial information page, and an arrow points to the '財務情報' link in the left-hand navigation menu.

財務情報
クリック

株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
定時株主総会	3月
基準日	12月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	同上
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所 (JASDAQ)
公告の方法	当社ホームページに掲載 http://www.koken-ltd.co.jp/ ただし、やむを得ない事由にて電子公告が行えない場合は、日本経済新聞に公告いたします。

各種お手続きについて

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、口座管理機関の三菱UFJ信託銀行までお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。（お問い合わせ先）
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
・連絡先 0120-232-711 (フリーダイヤル)
・ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
・電話による用紙請求（24時間自動音声応答サービス）
0120-244-479 (フリーダイヤル)
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 **興研株式会社**